

「隆国寺障壁画」説明資料

豊岡市産業経済部文化・スポーツ振興課文化財室

1 兵庫県指定文化財「隆国寺障壁画」について

隆国寺障壁画は36面の襖絵からなり、弘化三年（1846年）の年号が記載されています。

隆国寺障壁画は岸派を代表する作品の一つです。岸派は、江戸時代後期から明治時代を代表する日本画の一派で、障壁画は岸派2代目の岸岱^{がんだい}と3代目の岸連山^{きしれんざん}により描かれています。

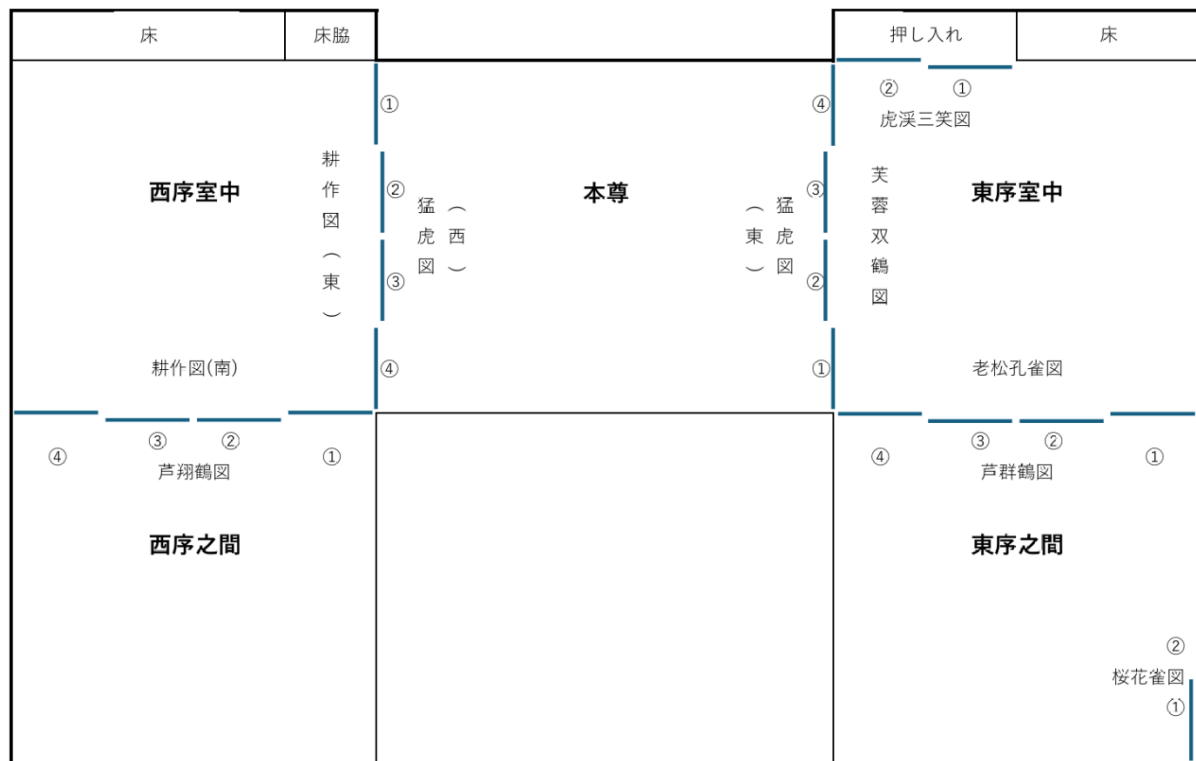
岸岱（1780年代～1865年）は、本堂の主要な部分の襖絵を描いています。仏間の「猛虎図」は父の岸駒^{がんこ}が得意とした虎の描き方を受け継ぎ、本尊を守るように配置されています。「耕作図」は人物描写や樹木などに中国に由来する南画の筆法を取り入れたものとされています。

岸連山（1804～1859年）は、花鳥図を得意とし、隆国寺障壁画においても輪郭線を描かずに草木を表現する技法が発揮されています。また、虎溪三笑図は中国の東晋で活躍した僧「慧遠^{えおん}」（400年ごろ）のユーモラスな故事にちなんでいます。

岸岱・岸連山が隆国寺に作品を残した理由は不明ですが、他所から移してきた記録がないことから、寺で約180年間にわたって保存されてきたとみられます。

〔参考文献〕谷本政春編、『但馬の錦』、1979年

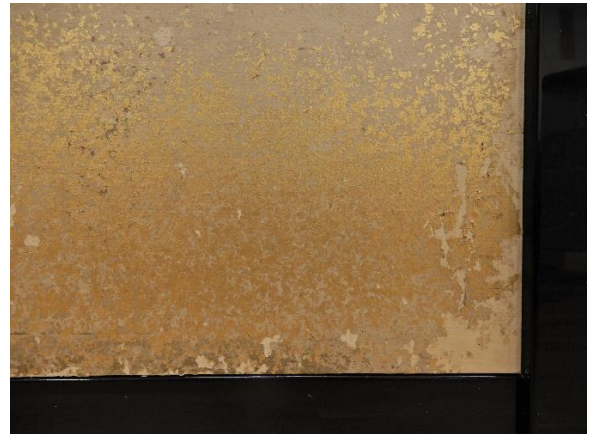
2 隆国寺障壁画平面図



3 修復前後写真（撮影：(株)文化財保存）



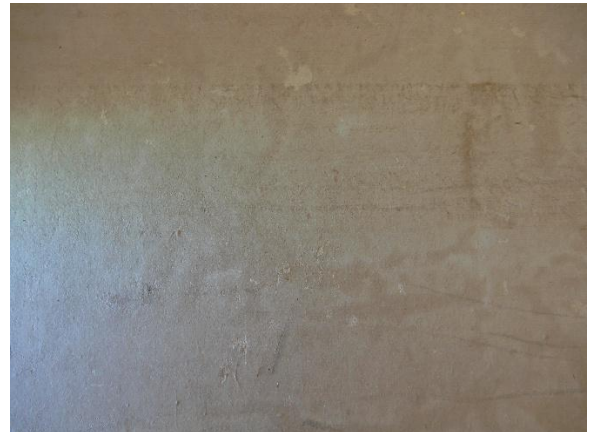
耕作図（修復前）



耕作図（修復後）



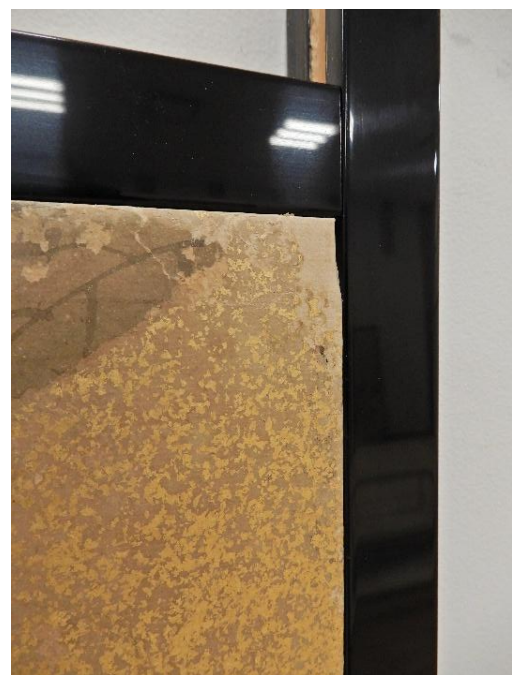
あししょうかくず
芦翺鶴図（修復前）



芦翺鶴図（修復後）



ふようそうかく
芙蓉双鶴図（修復前）



芙蓉双鶴図（修復後）

4-1 修復工程概要（撮影：(株)文化財保存）



① 襖^{ふすま}の解体

襖の縁や引き手を外し、絵が描かれた本紙を取り外します。



② 汚れの除去

本紙表面から濾過水を噴霧します。
溶け出した汚れを下に敷いた紙に吸収させます。



③ 剥落止め

膠^{にかわ}_注などの接着剤を浸み込ませて
絵の具が落ちないようにします。

注) 動物の骨や皮を材料としたゼラチン質の接着剤。



④ 裏打紙の除去

過去の修復で施された紙を湿らせ
慎重に取り除いていきます。



⑤ 紙の補充

欠損部分に本紙と同じ竹紙を補います。



⑥ 補彩

紙を補った箇所にだけ本紙に合わせて色調を調整します。

4-2 修復工程概要（撮影：(株)文化財保存）のつづき



⑦裏打ち

本紙の色合いに合わせて染めた^{こうぞ}楮^注の紙を使用して裏打ちを複数回施します。

注）落葉広葉樹です。繊維は和紙の原料です。

5 修復について

隆国寺障壁画は制作当初の状態を随所に留めながらも、経年劣化による損傷箇所も認められる状態でした。

今回の全面修復は2024年4月から2026年10月にかけて(株)文化財保存によって行われました。

<修復のポイント>

- ①襖の下地から本紙を取り外し、何層もの裏打ち紙を打ち替えました。
- ②虫による穴は補紙を用いてふさがれました。
- ③補修する紙などはすべて絵が描かれている紙と同じ材料の紙が使用されています。
- ④今回の補修で使われた紙の色調は周囲となじむように調整されています。
- ⑤過去の修理で施された補修紙が剥がされました。
紙どうしが癒着している箇所があり、困難を極めました。
- ⑥絵に付着した経年の汚れを除去されたとともに、絵の具に膠が塗布され、
強化保護されました。
- ⑦襖の下地や縁はすべて新調し、環境変化に対応できるように下張りが施されました。
- ⑧襖の下張りに隆国寺に関わる文字の書かれた紙が使われています。
今後の調査が期待されます。